



図書館だより



2023年
6月2日発行

秋草学園高等学校 図書館

ゴールデンウィークから始まった5月があっという間に過ぎ、気がつけばカレンダーはもう6月。16日には、としまえん跡地にハリー・ポッターの体験型施設「ワナー ブラザース スタジオツアー東京・メイキング・オブ・ハリー・ポッター」がオープンします。すでに池袋駅と豊島園駅がキングス・クロス駅とホグズミード駅をイメージしたデザインにリニューアルされていたり、ハリー・ポッターのラッピング電車が走っていたりしており、気になっている人も多いのではないのでしょうか。この機にもう一度全巻読み返したい人は、いつでも図書館へ借りにきてくださいね。

もう読んだ？村上春樹さんの6年ぶり長編新作

新刊が出る度に大きな話題となり、ノーベル文学賞の候補者としても度々名前が挙がる、現代日本を代表する作家の1人である村上春樹さん。4月に6年ぶりの長編小説『街とその不確かな壁』が出版されました。

村上さんは1980年文芸誌に中編小説『街と、その不確かな壁』を発表しています。いつかじっくり手を入れて書き直そうと思っていたこの作品を書き直す時期が来たのは40年後の2020年。そこから3年かけて完成させた今作『街とその不確かな壁』は村上さん自身にとっても大切な意味を持つ作品。650ページを超える大作を読み、みなさんはどんな感想を抱くのでしょうか。

913.6-4 『街とその不確かな壁』 村上 春樹 著 新潮社



16歳のきみが17歳のぼくに教えてくれた街の話。本当のきみは高い壁に囲まれたその街に暮らしているという。やがてきみは姿を消し、ぼくはきみを待ち続けたまま歳を重ねていく。そしてある日、ぼくの体は壁に囲まれた街へずとんと移っていた。本当のきみとの再会、ぼくに与えられた〈夢読み〉という仕事、街での暮らしのその先に第2部、第3部とさらなる展開が待っている。ブルーベリーマフィンをお供に村上春樹さんの造り出す独特の世界観にどっぷり浸かってみてください。

●村上ワールドにもっと浸ってみたいと思ったら

913.6-4 『海辺のカフカ 上・下』 村上春樹 著 新潮社



家を出た少年カフカ、猫と話すことのできる老人ナカタさん、2人の主人公ととにかくたくさんのが起きる。図書館に住むことになったり、幽霊に恋したり、空からイワシやアジが降ってきたり、石を探したり、夢か現実か、2つの物語に待つのはどんな結末なのか。

ハリー・ポッターは何度読んでもおもしろい

933-0-1 『ハリー・ポッターと賢者の石』 J. K. ローリング 著 静山社

幼い頃に両親を亡くし、叔父夫婦に育てられたハリー・ポッターが15歳の誕生日に受け取ったのはホグワーツ魔法学校への入学許可証だった。自分が魔法使いだとすら知らなかった少年ハリーの冒険と闘いはここから始まる！

魔法世界の光と闇が読む人を夢中にさせます。



778-4 『ハリー・ポッター魔法界名所大図鑑』 ジョディ・レベンソン 著 静山社

ワナー ブラザース スタジオツアー東京では映画の世界観をより深く知るための仕掛けがあるそうですが、知れば知るほど夢中になってしまいそうですね。そしてその沼をより深めてくれるのはこの本です。各シーンの設定や裏話、グラフィックアート等に発見と驚きが満載です。

新着コーナーの気になる本

913.6-1 『オール・ノット』 柚木 麻子 著 講談社

奨学金で大学に通う真央に日々を楽しむ余裕はなく、生活のためにアルバイトばかりの毎日を送っていた。そんな真央の生活が四葉さんとの出会いを機に変化する。裕福な家に生まれながら苦勞の多い人生を歩んできた四葉さんの生きる強さから多くを学び、成長していく。

929.1-7 『プリズム』 ソン・ウォンピョン 著 祥伝社

2023年本屋大賞 翻訳小説部門第2位の作品。韓国ソウルを舞台に描かれる男女4人の恋愛模様。内面に過去の傷や闇を抱えた彼らは甘くも苦くもある恋を通し、自分自身と向き合うことになる。失敗や後悔の先に新しい愛が始まり、人と人は繋がり、世界が広がっていく。

司書の今月はこの本読みました

2023年本屋大賞 発掘部門超発掘本が『おちくぼ姫』B913.6-7 田辺聖子 著 角川書店刊と知り、大好きなこの本を推す書店員を同志と感じながら、読み返しました。1990年に出版されたこの本は、古典の「落窪物語」の一部を現代語訳したものです。「源氏物語」以前成立の古い物語は、継母に意地悪されてもけなげに振る舞うおちくぼ姫が侍女の機転に助けられ、貴公子と結ばれ幸せになります。まるで日本版のシンデレラです。古典だと敬遠しがちですが、小説になっているから気軽に読めるこの本で、1000年続く胸キュン体験しました。【鈴木】